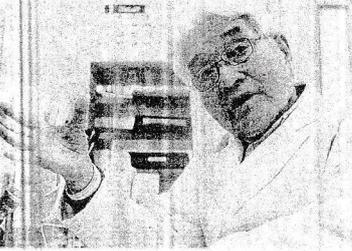


1954年3月1日に、米国がビキニ環礁で行った水爆実験で日本のマグロ漁船、第五福竜丸の乗組員らが被ばくしたビキニ事件から、今年で71年です。被ばくした漁船の数や、船員らの調査の記録も隠されるなど、日米両政府によって「忘れられること」を求められた同事件について、「ビキニ被ばく船員訴訟を支援する会」の共同代表で医師の間間元(きまもと)さま・はじめさんに聞きました。

(前田智也)

# ビキニ事件71年

静岡県焼津港を出港した第五福竜丸がビキニ環礁の近くで被災し、無線長の久保山愛吉さんが6カ月後に亡くなったことは多くの人が知っていますが、被災した漁船は第五福竜丸だけではありませんでした。

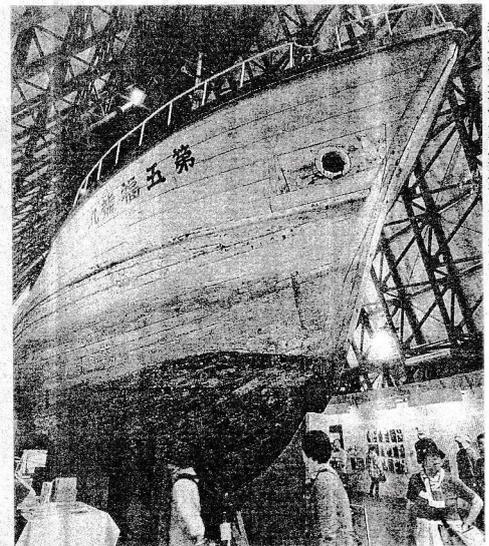


## ●汚染拡大を隠す

第五福竜丸以外の漁船に乗っていた船員たちの被ばくは、当時の新聞報道や高知の「幡多高校生ゼミナール」が1985年から実施した調査で一部は伝えられたものの、多くが忘れられていました。さまざまなきっかけがあります。

が、何よりも米国が水爆実験を継続するために、放射性降下物の汚染の広がりを隠したかったという意図がありました。そして日本政府は、200万ドルの「見舞金」を受け取るかわりに、米国への損害賠償請求権を放棄することに合意して政治決着してしまいま

## ビキニ被ばく船員訴訟を支援する会 間間元さんに聞く



都立第五福竜丸展示館の第五福竜丸

### 因果関係は明白

私は、静岡・伊豆半島の漁村に生まれ、ビキニ事件当時は小学4年でしたが記憶があります。その後医師となって故郷に戻り、県内の原爆被災者団体の活動に携わりました。その縁で93年に日本被団協の調査団の随員として旧ソ連

### 「忘却」求めた日米政府

## 国家権力による人権侵害

# 「忘却」求めた日米政府

調査では、元乗組員の大多数がB型肝炎やC型肝炎に罹患(りかん)していることを確認しました。さらに、慢性肝炎の治療には何の補償もありません。私も、一

放射線被ばくをした人たちは、必ずしも特定の病気が発症するわけではありません。しかし、被ばくをした人たちは「集団」で見ると、明らかに、後年になってがんや白血

私が出会ってきた元船員たちは、米国がビキニ環礁で水爆実験をしていたことはもちろん、被ばくによる長期的な健康への影響や健康管理の必要性について、何も知らされていませんでした。若くして重い病気になる、亡くなった元船員たちは無念だったと思

ビキニ事件による被災者には、被爆者援護法のような救済法がありません。米国も、第五福竜丸の元船員たちへの「見舞金」の支払いやマーシャル諸島への金銭的な援助を



ビキニ訴訟の口頭弁論で高知地裁に向かう原告団と支援者(2024年12月24日、高知市)

## ビキニデー 27～3月1日

日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞と広島・長崎の被爆30年を機に、核兵器廃絶を求める国際世論が高まっています。

被爆者とともに、核兵器のない世界、非核平和の日本を実現する年にしよう、被災71年3・1ビキニデー」の諸行事が2月27日から3月1日まで、静岡県静岡市で開かれます。

ビキニデーでは、今年の運動の出発点として、日本政府に核兵器禁止条約への参加を迫る「非核日本キャンペーン」などの活動を交流します。

### 主な日程

【2025年3・1ビキニデー】  
 日本原水協全国集会・国際交流会議 2月27日

いずれもグランシップ静岡内の会議室  
 【「第五福竜丸」の乗組員、故久保山愛吉氏墓参行進】 3月1日(土)午前